

FAX 送信先 075-746-3366

Web フォーム（右記）、
郵送（京都市左京区岡崎最勝寺町 13 ロームシアター京都
事業課 焚き火ボラ係）でも受付しております。

火守ボランティア募集申込用紙

氏名（ふりがな）	年齢	性別
		男 ・ 女 ・ 回答しない

住所	所属（あれば）
----	---------

電話番号	FAX
------	-----

メールアドレス（メーリングリストに登録いたします。）

【参加必須】事前オリエンテーションへの参加が可能 9月23日（水・祝） ☒

参加可能な日程	☐ ①10月4日（日）	☐ ②10月17日（土）
※2日間以上必須	☐ ③10月24日（土）	☐ ④10月31日（土）
		☐ 予備日 11月1日（日）

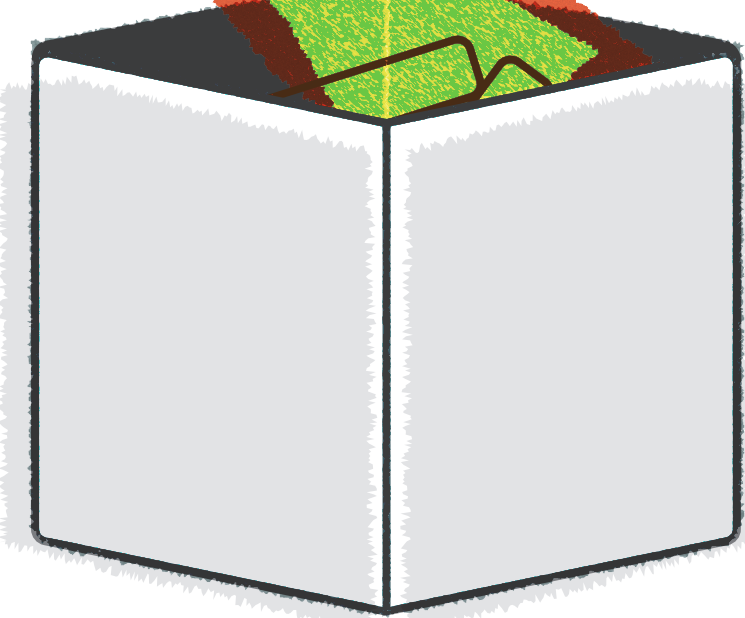
応募動機：120字程度でご記入ください。そのほか、特技や資格などがあればお書きください。

火守ボランティア募集

ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）が
つくるちっちゃい共有地

全国各地でカフェや迎え火などのプロジェクトをアートとして実践する
アーティストの小山田徹さんをホストに、ローム・スクエアでちいさな
焚き火の場をつくります。原始的な「火」を囲んでの、ゆるやかで
自律的な集いの時間を一緒に育んでいきませんか。

この企画は 2022 年度に開催したアーティストの小山田徹さんと、食農思想史研究者
の藤原辰史さんの対談をきっかけに立ち上げ実施している企画で、今年で
5回目となります。実施にあたり、この小さな共有空間の中心となる「火」を
管理し、場をともにつくりあげる火守ボランティアを募集します。火の取り
扱いをふくめた事前オリエンテーションを実施しますので、ご興味
のある方はご応募ください。



ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らう会

日程：①10月4日（日）②10月17日（土）③10月24日（土）④10月31日（土）
※11月1日（日）予備日 2日間以上の参加必須
各日 17:00 集合・準備開始、18:00 ～ 20:30 焚き火、20:30 ～ 撤収
（21:00 頃終了予定）
会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア
※雨天・荒天の場合は中止となる可能性があります

＼参加必須／
火守ボランティアオリエンテーション

（火の扱い等の事前講習含む）
日程：9月23日（水・祝）
17:30 集合（17:00 受付開始）～ 21:00 終了予定
会場：ロームシアター京都
ホスト：小山田徹（アーティスト）、中脇健児（場とコト LAB 代表）

ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らう会

小さな共有空間の中心となる「火」を管理し、場をともに作りあげる「火守ボランティア」を募集します。

応募から参加までの流れ

8月30日(日)	応募締切（申込多数の場合は抽選）
9月中旬	メールにて抽選結果通知
9月23日(水・祝)	【参加必須】 火守ボランティアオリエンテーション
①10月4日(日) ②10月17日(土) ③10月24日(土) ④10月31日(土)	焚き火 2日間以上参加必須 予備日は11月1日(日)

締切 8月30日(日)

応募方法

- ・WEB フォーム(右記 QR コード)
- ・FAX 075-746-3366
- ・郵送先

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町 13
ロームシアター京都 事業課 焚き火ボラ係



応募条件

- ・18歳以上の方(高校生の場合は保護者の同意書が必要)
- ・9月23日(水・祝)開催の事前オリエンテーションに参加できる方
17:30 集合(17:00 受付開始)～ 21:00 終了予定
会場：ロームシアター京都
- ・以下の日程のうち2日間以上参加できる方

- ①10月4日(日)
- ②10月17日(土)
- ③10月24日(土)
- ④10月31日(土)
- ⑤予備日：11月1日(日)

17:00 集合・準備開始

18:00～20:30 焚き火

20:30～撤収(21:00 頃終了予定)

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア

※雨天・荒天の場合は中止となる可能性があります。

募集人数

30名程度
※申込者多数の場合は抽選を行います。

保険

主催者負担により、
ボランティア保険に加入する予定です。

待遇

報酬・交通費の支給はありません。

お問合せ

ロームシアター京都
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町 13
電話：075-771-6051(代表、10:00-17:00)
メール：oubo@rohmtheatrekyoto.jp
担当：事業課 儀三武、山形

ホスト



小山田徹(こやまだ とおる)

アーティスト。1961年鹿児島に生まれる。京都市立芸術大学日本画科卒業。
84年、大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。ダムタイプの活動と平行して90年から、さまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」などの企画をおこなうほか、コミュニティカフェである「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加。京都市立芸術大学学長。

メッセージ

焚き火という営みは、世界最小で最古の共有空間です。
人間には、遺伝子レベルで火の前でのふるまいが組み込まれているのではないのでしょうか。
コミュニティでの縁が切れてしまいつつある現代、焚き火を通じて、いま一度それを獲得する時間が必要だと思っています。



←焚き火についてのエッセイ
文：小山田徹

関連イベント

場の結束や発展を目指す「強さ」とはちがう
役割がいつのまにか変わる「弱い場」から考える
コミュニティのあり方

アート、まちづくり、地域活動など、ジャンルを越境しながら、ひらかれた場・コミュニティづくりを実践してきた中脇健児さん。活動のなかで抱いた「強い場」への疑問の先に辿りついたのは、「ふり」や「擬態」など、なにかに紛れることで、自然と役割が交代していく「弱い場」のしなやかなあり方でした。ちいさな共有地づくりを目指し、今年で開催5年目となる「ちっちゃな焚き火を囲んで語らう会」に当初から運営としても関わってきた中脇さんと一緒に、人が集まる場・コミュニティについて考えていきませんか。

申込フォーム



中脇健児 Nakawaki Kenji

場とコトLAB代表、大阪芸術大学 准教授、京都芸術大学 非常勤講師、堺アーツカウンシルプログラムオフィサー。各地で市民協働のプロジェクトやコミュニティプログラムを手がけ、劇場・ミュージアム・図書館・公園・商店街・団地などを多様な人たちが出会い、創造していく場に変えている。兵庫県伊丹市で手がけた「伊丹オトラク」「鳴く虫と郷町」は地域連携・地域協働のプロジェクトとして20年続く。2021年から2年間、京都市立芸術大学院にて、関係や場を扱う美術家、小山田徹氏に師事し、改めて自身の活動を見直す。現在はコミュニティ活動で発生する「結束の強さ」から抗うために、「主客が混ざる場」「弱い場の創出と維持」「複数の私が獲得される"ふり"」をテーマに活動する。



主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市協力：岡崎自治連合会、藤原辰史(京大大学人文科学研究所)、南寛、みんなのミシマガジン編集部(株式会社ミシマ社)
令和8年度文化資源活用推進事業